

アルテリア・ネットワークス株式会社

第7回定時株主総会継続会

2022年9月15日

司会：本日はアルテリア・ネットワークス株式会社、第7回定時株主総会継続会にお越しいただきまして、ありがとうございます。

開会に先立ちまして、事務局より何点かご連絡させていただきます。場内でのお食事はご遠慮ください。本館は全面禁煙となっております。喫煙はご遠慮ください。携帯電話等、音の出るものはほかの株主様のご迷惑となりますので、必ずマナーモードにするか電源をお切りくださいますよう、ご協力をお願いいたします。また許可のない写真撮影、録音録画はかたくお断りいたします。

当会場は、地震に強い設計でございます。強い地震が発生した場合、ただちにお席を離れず、落ち着いて係員の指示をお待ちください。

本継続会におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念いたしまして、登壇者、スタッフを含めマスク着用の上、対応させていただきます。また株主の皆様におかれましても、会場内ではマスクの着用、咳エチケットへの配慮をお願いしております。

なお議長席、答弁席では登壇者がマスクを外して発言させていただく場合がございますが、感染防止対策を実施しております。株主様のご理解、ご協力をよろしくをお願いいたします。

皆様、お待たせいたしました。株本 CEO、お願いいたします。

株本：社長の株本幸二でございます。本日はご多用のところ、本株主総会の継続会にご出席賜り、ありがとうございます。当社定款の定めによりまして、私が本継続会の議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それではただ今から、中断しておりましたアルテリア・ネットワークス株式会社の第7回定時株主総会を再開し、継続会を開会いたします。本継続会の議事運営につきましては、議長である私の指示に従っていただきますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

また、本継続会では新型コロナウイルスへの感染拡大対策として、株主様の安心、安全を最優先し、できる限り開催時間を短縮して議事を進行いたします。円滑な議事運営のためにも、株主の皆様には周囲へのご配慮をお願い申し上げます。

なお咳き込まれているなど、明らかに健康状態に異常が見受けられる株主様におかれましては、会場係よりお声がけをさせていただき、ご退席をお願いさせていただく場合もございますことを、あらかじめご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

本継続会におきましては、株主様からのご質問等のご発言につきましては、報告事項の内容説明が終わりました後に一括してお受けいたしたく存じます。ご質問は1回につき1問とさせていただきます。なお本継続会の議事を記録するため、後方および側面よりビデオカメラを用いております。皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題を進めてまいります。目的事項でございますが、お手元の継続会開催ご案内1ページに記載のとおりでございます。

まず報告事項に先立ちまして、本継続会開催の経緯について改めてご説明申し上げます。当社は当社の従業員1名が第三者と共謀の上、携帯電話の契約料金サービス、および着信、アクセスチャージビジネスの仕組みを悪用して、不正な利益を取得していた疑いで起訴された事態に関し、外部の有識者も交えて設置した特別調査委員会から、8月10日に調査報告書を受領いたしました。

特別調査委員会による調査を踏まえ、当社は本件について当社の2022年3月期決算への影響はないものと判断いたしました。また同日に、会計監査人より会計監査報告を受領いたしました。

その後、8月15日には監査役会より監査報告書を受領し、第7期の決算関連の手続が完了いたしましたので、2022年6月29日開催の第7回定時株主総会において、株主様にご了承いただきましたとおり、第7期の計算書類等の内容をご報告するため、本継続会を開催させていただいた次第でございます。

株主の皆様には多大なご迷惑、ご心配をおかけいたしましたこと、心からお詫び申し上げます。

続きまして、監査役会および会計監査人の監査報告でございます。

こちらにつきましては連結計算書類の監査結果を含め、お手元の招集ご通知26ページから30ページに記載のとおりでございます。

それでは本日の報告事項のうち、第7期事業報告、連結計算書類、および当社の計算書類の内容につきましてご報告申し上げます。

内容につきましては、お手元の招集ご通知4ページから25ページに記載のとおりではございますが、本日はその概要につき映像を使ってご報告いたしますので、前方のスクリーンをご覧ください。

映像：わが国において現在、景気は持ち直しの兆しが見られる一方、原油価格や原材料価格の上昇、ウクライナ情勢などによる下振れリスクにも注視する必要があります。

当社グループが事業展開する情報通信関連市場においては、クラウド利用の拡大やテレワークの普及により、新たな高速通信やセキュリティの高いネットワークサービスなどへの需要が、引き続き発生しております。

このような事業環境の下、主力サービスの販売活動ならびにコスト管理などを通じて、業績は全体として順調に推移しました。

アルテリアグループは自社保有の光ファイバーネットワークを基盤に、「インターネット」「ネットワーク」「マンションインターネット」、これら三つのビジネスを展開してまいりました。さらに、新たな成長ポートフォリオの取り込みのため、DXサービスを立ち上げました。

2022年3月期はテレワークやオンライン学習に加え、ゲーム配信やライブ配信などによるトラヒクの増加により、自宅やオフィスといった場所を問わず、広帯域・高品質の通信サービスの需要がますます高まりました。

インターネットサービスにおいては、FTTx・ISP向けサービスの売上が、前年と比較し増加しました。

FTTxサービスは、広帯域かつ高品質の需要が堅調に継続しており、上下最大10ギガベストエフォート型サービスの販売も順調に拡大しています。

ISP向けサービスでは、2020年4月に販売開始したIPv6対応のVNEサービス、クロスパスが、より高品質なサービスを求める光コラボレーション事業者や法人向けの利用増加もあり、提供を拡大しています。

また 2021 年 10 月から自社で保有する IP バックボーンを、ロサンゼルス・サンノゼ・シンガポールへ延伸・拡張を行うことにより、国際間においても冗長構成を実現しました。

今後も継続して IP バックボーンを拡張し、国内の接続事業者にとどまらず、海外の接続事業者との連携・協力を深め、遅延の少ない高品質なインターネット接続サービスを提供してまいります。

ネットワークサービスにおいては、主力の専用線や VPN の売上が前年と比較し増加しました。

専用線サービスでは、DX を推進している一般企業やコンテンツサービス事業者、通信事業者向けの販売好調により、売上が拡大しています。

また、データセンターが集積する、千葉県印西エリアおよび大阪府彩都エリアにおいて、OTT 事業者やクラウドサービス提供事業者の専用線サービスの需要獲得を進めています。

VPN サービスでは、NFV 技術を活用した VANILA の販売を 2022 年 1 月に開始しました。今後もさらなる機能拡充を行い、お客様がネットワークをより一層快適にご利用いただけるようサービスを展開してまいります。

マンションインターネットサービスにおいては、動画視聴などの従来ニーズに加え、在宅勤務やオンライン授業などにより、昼夜を問わず高品質な回線に対する需要が高まり、分譲市場・賃貸市場ともに順調に売上を拡大しております。

MM 総研が発表した、「全戸一括型マンション ISP シェア調査」では、8 年連続シェア 1 位を獲得しました。さらに戸建向け全戸一括型インターネット接続サービスをリリースし、大規模戸建分譲地への提供を開始しております。

また、賃貸市場を引き続き成長ターゲットとし、高品位なサービスとスマートロックのような付加価値サービスを組み合わせ、競争力を強化し、売上の拡大を実現しております。

こうした既存ビジネスを基盤に新たな需要に応えるべく、DX サービスを立ち上げました。

2021 年 8 月には、マンション居住者様向けにより高速な通信環境を利用可能とする、優先通信オプション「Connectix」の提供を開始しました。Connectix は特許を取得し、サービス提供可能棟も順次拡大させています。

さらに株式会社 GameWith との共同出資による合弁会社、GameWith ARTERIA 株式会社を設立しました。GameWith ARTERIA では、e スポーツ大会用の配信スタジオの運営事業や、e スポーツ選手やオンラインゲーマー向けの通信サービス事業などを推進していく予定です。

アルテリア・ネットワークスは、目まぐるしく変化を続けるデジタルシフトの現代において、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の発展に寄与しながら、社会の進歩に貢献していくことを指針とし、さらに快適なサービスを提供し続けていくためにまい進してまいります。

続いて、2022 年 3 月期の連結業績のご報告です。

2022 年 3 月期の売上高は、前期比 3.9%増の 554 億円となりました。営業利益は前期比 7.6%増の 95 億円となり、親会社帰属当期利益は前期比 9.0%増の 60 億円と、増収増益基調を継続しております。

主要サービスを中心に、中期経営計画初年度の業績予想を達成することができました。

EBITDAは前期比4.0%増の184億円となり、中期経営計画におけるEBITDAマージン30%台を維持する目標を達成いたしました。

フリーキャッシュフローは、前期比で1.5%減の65億円となりました。

当期の借入金とリース債務の合計は473億円となり、ネットレバレッジレシオは2.1倍に微増となりましたが、適切な水準で推移しています。

サービスごとの売上実績については、クラウド利用の拡大やテレワークの普及による新たな高速通信や、セキュリティの高いネットワークサービスなどへの需要を取り込み、グループ全体として5.0%の成長率を達成しました。

続きまして、今年度の業績予想について、ご説明いたします。

インターネットにおいて、FTTxサービスではパートナー企業とのさらなる連携強化による着実な成長、ISP向けサービスではIPoEサービス「クロスパス」への移行促進。ネットワークにおいては基幹網の増強・延伸による専用線サービスのビジネス機会の拡大、NFVサービスVANILAの拡販。マンションインターネットにおいては従来のマーケットに加え、戸建向け全戸一括型インターネット接続サービスといった、新たなマーケットへの営業強化などに取り組んでまいります。

また、中期経営計画で掲げた目標の達成に向けてDXサービスでは、コンシューマー向け通信サービスのラインアップ拡充、サービスプラットフォーム「Portas」のサービス提供開始、eスポーツ市場への参入・非通信サービス拡充といった各種サービスの本格的な提供を開始し、新たな成長ポートフォリオを取り込んでまいります。

これらの取り組みにより、2023年3月期の連結業績予想は、売上高前期比4.7%増の580億円。その他業績につきましても、増収増益基調を維持する見込みです。

2022年3月期は、60円45銭の配当を実施しました。配当性向50%程度を中長期目標とし、株主に対する配当を安定的に継続することが、企業としての重要な責務であると認識しております。今期の配当金は期首配当予想額を下限として、年2回、1株当たり60円52銭とする予定です。

アルテリアグループでは、2030年に向けたサステナビリティ基本計画を策定しました。このたび定めた基本計画をもとに、当社グループは本業とする情報通信サービスの提供などを通じて、持続可能な世界の実現に貢献するための活動を、今後さらに推進してまいります。

株本：以上で第7期事業報告、連結計算書類、および計算書類の内容のご報告を終了いたします。

最後に冒頭でお話しさせていただきました、当社の従業員1名が逮捕、起訴された事案に関しまして、特別調査委員会の調査結果を踏まえました再発防止策の取り組みについて、ご報告いたします。

特別調査委員会の調査結果は、8月10日付適時開示にてご報告させていただいておりますが、当社従業員が逮捕、起訴された事件に関し、当社のほかの役員や従業員が関与した事実、すなわち当社としての組織的な関与は認められませんでした。

しかしながら逮捕された従業員については、犯罪への加担事実は認められなかったものの、本件への関与が疑われる代理店の代表者から個人的に経済的利益の供与を受けていた事実、およびアクセスチャージの仕組みが悪用された事実が判明いたしました。

再発防止策

- **営業担当者の癒着防止策の導入**
- **コンプライアンス意識の浸透のための諸施策の実施**
- **ノンコアビジネスに内在するリスクの洗い出しと、感度の向上**

調査の結果、および委員会からの提言を踏まえ、当社グループは再発防止策として営業担当者の癒着防止策の導入、コンプライアンス意識の浸透のための諸施策の実施、ノンコアビジネスに内在するリスクの洗い出しと感度の向上の3点に取り組んでまいります。

なお3点目に関しましては、着信アクセスチャージビジネスに関するリスク低減施策として、当社は同ビジネスから撤退、縮小する方針を定め、取引先との交渉を開始しております。さらに同様のビジネスを手がける他事業者に対しましても、当社で起きた問題の共有を図ることで、不正の温床となる社会的リスクの軽減に努めてまいります。

そのほかの再発防止策の詳細な内容につきましては、9月7日付適時開示にてご報告いたしております。

当社は特別調査委員会の調査結果、および提言を真摯に受け止め、このたびの一連の経験と、そこから得た教訓を経営層のみならず全従業員が深く理解し、再発防止策のための具体的施策を策定し、実行してまいります。

以上、ご報告いたしました。

質疑応答

株本：それではただ今より、報告事項につきましてご質問をお受けいたします。ご発言に際しましては挙手をしていただき、私から指名させていただきますので、マイクにお進みください。なおマイクは念のため、ご発言の株主様が変わるごとに係員が消毒いたしますので、ご了承ください。ご質問は1回につき1問とさせていただきます。

ではお受けいたしますが、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

質問者：今回で2度目、短期間で不祥事が2回続いたわけなのですが、正直申し上げて今の説明にしても、ビデオ説明を流すかたち自体が熱を感じないんです。経営の熱を感じないことがものすごくあるんですね、株主として。

正直申し上げて、不祥事が続くというのは経営者が前を向いて、業績を死にものぐるいで上げようというときには起きないんです。正直、この中に業績を朝から晩まで上げようと考えていらっしゃる方が何人いるか、非常に疑問です。

そこでお伺いしたいのですが、今後 TOB 等をかけられた場合、値段もそこそこ妥当な値段でやるとした場合、もちろん結論は取締役会にかけなければ分からないわけなのですが、社長個人としてどのようなお考えがあるのか。

親会社に聞かなきゃ分からないということになるのか。TOB というもの自体は前向きに考える必要はないと考えていらっしゃるのか。それとも丸紅自体がシナジーの働く会社ではございません。シナジーの働く会社に譲ったほうが、国の経済としても良くなるのではないかなど。だとすれば、そういう選択肢もあるのではないかと思うのですが、社長としての見解をお聞きしたいです。

株本：ありがとうございます。

今回、私どもは短期間で2回目の不祥事、2019年で行いました。独禁法違反の疑いの事案がありまして、ここでおわび申し上げたのですが。この短期間で2回起こったというところ、ご指摘どおりでございまして、本当に心からおわび申し上げます。

経営者がしっかりしていればこんなことは起きないはずだ、経営者が、役員含めて熱意を持って業績を上げようとするれば、こんなことは普通は起こらないはずだと。そのようなご叱責であったと思います。朝から晩まで、これだけ考えてやっている人がどれだけいるんだというご叱責であったと思います。

私ども、本当にご指摘は真摯に受け止めますし、さらなる対策のために全力を尽くします。それはお約束申し上げます。かつ私どもは全員、ここにいる、座っているメンバー全員、当社の業績を上げるために毎日努力していると信じております。

ご質問にございましたが、今後 TOB 等をかけられた場合、かつその値段も妥当であった場合に、社長の意見としてどのように考えるのか。親会社、丸紅ですが、そことのシナジーもそんなにない中で、親会社の意向だけを伺ってやるのか。それとも TOB があって妥当であれば、と考えるのかについてのご質問であったと思います。

仮定の話にはなかなか回答しづらいところではありますが、私個人の意見ということでお聞き賜ればと思うんですけれども、会社のステークホルダー、株主様、従業員、取引先、パートナーにとっ

てのベストは何かをしっかりと判断していくのが、経営者、経営陣の役割だと認識しております。したがって、本当に当社にとりまして成長に資するものであれば、これはしっかりと検討すべきであると私個人は思います。

またその際に当然、親会社との意見が対立することはあるかもしれませんが、ただやはりそれが経営を任された私どもにとっての責務だと考えております。なのでTOBをかけられたり、逆にかけたりと、私どもは積極的に検討してまいりたいと考えております。

仮定の質問で、私個人の意見だのご理解賜ればと思いますが、そういう考えでおります。

ご質問承りたいと思います。

質問者： 株価は経営者の通信簿といわれるのですが、私は特別な株主ではないですが、通常の少々の株、少ない株を持っている人間ですけれども、やっぱり株の高い会社はそれなりの企業経営をしっかりとっていて、そこに参加している経営者がしっかりとしている。やっぱり株価が下がっているということは、そこに大きな原因があるんじゃないかと。

最初の方が質問されたように、経営者の方の資質はいかがなのかということも、一つ理由にあると思うんですけれども。おたく様の株はここに来られている、今日出席しておられる人は、みんな株価のことが気になって来ているんです。そのことはよく分かっています。まずは企業の方が、会社の株価についてどのぐらい関心を持っているのか。そこらへんはしっかりとさせていただきたく思います。その点が1点目です。

株価の動きは非常に微妙なものです。よくまた実態を表しています。株主だって単なる売買だけで、あるいは売った買っただけじゃなくて、上がった下がったじゃないんですね。会社の動き。

私は今日は一番最初にここへ来たときに、質問は一体この会社は何をやっているんだろうかと、正直に言って。先ほど結構それなりの説明がありましたけれども、一般の方はそんな感じだと思います。もうちょっと会社というものをきちんとした宣伝をして、企業者側自身がもっと前面的に出て説明するぐらいの気持ちじゃなきゃだめです。

あなた方は第一線でここに並んでいますけれども、まず一番最初に先ほど言ったように丸紅が50%を握っている。そういう大きな安楽の中にいるんじゃないですか。そういうことから根本的に違うんですよ。

それでこういうかたちで職員が、従業員でしょうか。不祥事を起こしたかもしれません。職員は関係ないですよ。それを管理するのがあなた方の仕事なんだから。またそれをどうやって処理するのか、そういうことができなきゃやめなさいよということです。いかがですか。

最初に言ったように株価は従業員の、あなた方の成績を表しているんです。それが全て表してくるんです。株価が高いとか安いとかじゃなくて、株価がどんな状態になってきちゃっているのか、そこから自分たちの反省をしていただきたい。よろしいですね。以上です。

株本：ありがとうございます。

株価は会社の通信簿といえますか、経営者の通信簿。高い会社はしっかりと経営されている。当社の株価は下がっているわけですが、それに対してどこまで責任を感じているのか。どこまで株価を

そもそも気にしているのか。丸紅が50%を持っている中で、われわれはそれに甘えて経営しているんじゃないかというご叱責であったかと思います。

会社の内容、私どもの通信事業が分かりづらいところもあって、それに対してわれわれはしっかり市場、ユーザー含めて、説明できているのかということもございました。

まずは株価に対してどのように向き合っていくのか。そのようなご叱責と質問であったと思いますので、少しこれも私の意見として述べさせていただければと思います。

今回の不祥事で、間違いなく買おうとしていた株主様、もしくは機関投資家は控えたのではないかなと思うんですね。今回の事案は私どもにとりまして、痛恨のきわみです。先ほどのご質問にもありましたけれども、2019年に事案を起こして、そこからコンプライアンスの取り組みをしっかりとやったつもりでいたんですけれども、まだ実は足りていなかったということだと思っております。それが株価に影響しているところは、あると思っております。

したがって私どもとしては、私自身これに対してしっかり反省し、責任を取るべきだと思います。今回処分も発表させていただいたのですが、やはり株価は会社の価値を表している一つでございますので、株主様に対してのお返しといたしますか、やっぱり株価を上げていくことが、私どもの大きな責務でございますので。

私も毎日、株価をずっと気にして見ております。本当に非常に残念な思いをしておりますが、これは先ほど申しあげました事案の影響もあると思います。もう一方で、われわれの収益に対する懸念が若干あるのかなと思っております。先期はご案内のとおりかもしれませんけれども、一時的な利益があったわけですから、それが今期なくなりますので、それに対してしっかりわれわれは開示予想を達成できるのかどうか。市場ではそこを注視されていると思います。

私どもの中期経営計画は、非常にアグレッシブなものを策定しております。それが本当に実現できるのかどうか、市場はそこをしっかりと見ていらっしゃると思っております。

したがって今期、われわれは開示予想に対してなんとしてもこれを実現するよう、全力を尽くしておるところでございます。ここができれば、今後の中期経営計画の達成に向けて大きく前進すると考えており、その果てにはといたしますか、それに伴いまして株価も上昇していくのではないかと期待しておるところでございます。

やはり利益をしっかりと出すところが、一番の株価に対するインパクトだと思っておりますので、機関投資家さんとかとお話ししても大丈夫かと聞かれておりますので、売上、原価のコントロール等努めまして、しっかりと中期経営計画を達成し、株価の上昇につなげていきたいと考えております。

IRに関しまして、説明とかに関しまして、実は先ほどマンションのインターネットではナンバーワンと出ておりましたけれども、先日日経コンピュータですか。日経の雑誌の調査で、当社の法人向けネットワークのサービス、専用線ですとかインターネットですとか、そういうものの顧客満足度調査でナンバーワンでございました。ネットワークの世界において、私どもがナンバーワン。去年はちょっと違ったんですけれども、今期は返り咲いたところがございます。

まだまだ足りていないとは思いますが、そのように評価されているところもごさいます。しっかりと今期、および今後やっていき、株価を上げて、株主様のご期待に応えてまいりたいと思さいます。よろしゅうござさいますか。あらがとうござさいます。

ほかにはらっしゃさいますでしょうか。いらっしゃらないようござさいますので、質疑応答を打ち切らせてさいたさきたいと思さいます。

今日は決議事項がござさいますので、以上をもちまして本日の会議の目的事項は全て終了いたしました。

閉会にあたりまして、株主の皆様のみすみすのご健勝をお祈り申しさげますとともに、当社に対しましてより一層のご支援、ご協力、ご鞭撻賜りますようお願さい申しさげます。

本日はどうもあらがとうござさいました。